

## 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科修了式 式辞

アジア太平洋研究科長 三友 仁志

本日ここに学位記を授与される皆さん、修了おめでとうございます。早稲田大学アジア太平洋研究科を代表して、心よりお祝いを申し上げます。また、皆さんをこれまで励まし、支えてくださったご家族の方々にも、心からのお祝いと感謝の気持ちをお伝えいたします。

この春、大学院を修了する方は 73 名で、その内訳は博士課程が 10 名、修士課程が 63 名です。

皆さんは、本日、修了式に臨み、学問に取り組んだ日々を振り返り、多くの感動と気づき、そして時に経験した苦労を思い起こしていることでしょうか。研究室の仲間や教員との交流を振り返り、アジア太平洋研究科が目指す、「多様なバックグラウンドを持ちながらも一つの目的のもとに知を結集する」という理念を実感していただけたならば、教職員一同にとり、とても大きな喜びです。

アジア太平洋研究科は 2018 年に創立 20 周年を迎えました。早稲田大学の歴史に比べれば 20 年はあまりに短いといえますが、しかしこの間に、アジア太平洋地域にフォーカスした教育と研究は国内外で高く評価され、研究科の地位をこの 20 年で確立することができました。この 20 年間に輩出した修士課程学生は 3000 名以上にのぼり、出身の国と地域は 50 以上に及びます。日本あるいはアジア太平洋地域に限らず、世界のあらゆる地域から学生が集い、修了後はさまざまな形で社会を支え、けん引する役割を担っています。また、博士後期課程修了生は 250 名を超え、修了後は研究および教育の分野に限らず、幅広く活躍されています。皆さんは、本日、その一員となります。

2015 年に国連において、人間、地球及び繁栄のための行動計画として「持続可能な開発目標 (SDGs : Sustainable Development Goals)」が採択されました。17 項目の目標、169 のターゲットは、我々人類がより幸福な生活を実現するうえで、解決すべき課題を体系的に例示したものとと言えます。皆さんは、この研究科の修了生の一員として、それぞれの専門性に基づき、これらの目標の達成に向けて、ぜひ活躍してください。

1 個人あるいは 1 企業による貢献では SDGs の達成は難しく、マルチステークホルダーによる貢献が求められています。さまざまな主体が目標に向かい共に働くことが必要です。そのためには、考え方の違いを超えて信頼に基づくつながりの形成が不可欠です。皆さんが過ごしたこのアジア太平洋研究科の理念は、まさに SDGs に向けた活動が持つべき理念と合致するものです。

私の専門とする情報通信分野でも、SDGs への貢献が真剣に検討され始めています。日本では総務省において SDGs 貢献に向けた検討がされており私も参加しておりますが、そこでとても素晴らしい出会いがありました。JICA から、情報通信スペシャリストの方が参加されているのですが、ご挨拶の折、その方は「実は、私は、アジア太平洋研究科の 1 期生です」とおっしゃってくださいました。自信をもってアジア太平洋研究科の修了生だとおっしゃっていただけたことがとてもうれしく、そのような場で修了生と一緒に仕事ができる喜びをとても強く感じました。

思わぬところで修了生同士がつながる、あるいは教員と修了生がつながる、意図せずとも目的を共有したネットワークが形成される、そうした知の連携、協働が生まれることこそ、この研究科の価値そのものだと思います。

アジア太平洋研究科は、次の 20 年後を目指し、さらなる教育・研究の充実に取り組んでいます。そのためには、アジアがもつ多様性や潜在性、さらには抱える諸課題に対して、伝統的な学問の領域を超えて、総合的学際的に教育・研究を行う知の集積地となることを目指す必要があります。単に課題の解決を志向するだけでなく、新しい価値の創造に向けた学術的貢献をめざしております。そのためには、皆さんの協力は欠かせません。皆さんがこれから進む道は多様ですが、ひとりひとりの活躍が、この研究科の新たな価値を生み出すのです。

皆さんは本日早稲田大学アジア太平洋研究科でその課程を修了されました。そして今日が、新たな協働 collaboration の始まりです。皆さんが歩むその足元から新しい世界が始まるのです。皆さんが、アジア太平洋研究科における学修・研究を通じて得られた分析能力を大いに活用して、アジア太平洋地域のみならず地球規模での課題の解決および価値創造に向けて貢献できる高度人材となることを期待しています。

最後になりますが、本年 3 月末をもって、山岡道男先生が定年となりご退職されます。先生はアジア太平洋研究科設立にご尽力され、研究科 20 年の歴史とともに歩み、研究科の発展に多大なご貢献をされました。ここにあらためて感謝の言葉を捧げたいと思います。

では皆さん、ともに、よりよい未来社会を作っていきましょう。

本日は、修了おめでとうございます。